

## 平成 27 年度生徒指導集中対策指定校及び生徒指導実践指定校 「特別活動の取組事例」

学校名	尾道市立栗原北小学校	校長氏名	本藤 展康	生徒指導主事氏名	利田 政美
-----	------------	------	-------	----------	-------

## 取組事例名 『栗原北小学校 運動会 ～変える、変わる、われらの学校！～』

## 取組のねらい『キーワード 自律性の醸成』

・昨年度、栗原北小学校では暴力行為等が多く生じた。そんな状況を見てきた6年生は、「このままではいけない。栗原北小学校を自分たちで良い学校へ変えていきたい。」という気持ちを持っている。運動会の取組を通して、愛校心や正義感といった前向きな気持ちを高めていくことで児童の自律性を醸成し、児童が生き生きと生活できる落ち着いた学校づくりの実現を図っていく。

## 取組の具体的内容『キーワード 一体感と達成感の高揚』

<目標・ふり返し>

- ・6年生全員で、「こんな運動会をつくりたい」というめざす運動会像について話し合い、明確にする。
- ・児童会を中心に運動会のテーマを決め、児童代表委員会でその思いを全校に伝える。
- ・全児童が、運動会に向けて自分が頑張る目標を明確にし、掲示する。
- ・運動会後には、自分の目標に対してのふり返しを行い、掲示する。
- ・他学年への評価を行い、掲示する。

児童の感想より

○組体操の最後は全員ピラミッド。私はとてもドキドキした。絶対に成功すると信じた。全員を信じた。前を向くといつも見えるはずの影がなかった。もしかして立っていないのか・・・その時、とても温かい拍手に包まれた。立っていると確信した。一段ずつ下りてハイタッチ。自然に涙が出てきた。仲良しの子、そうではない子、そんなことは全く関係なかった。とても達成感があり、この58人だからこそできたのだと思い、感動した。自分達が感動するから見ている人にも感動を与えることができる。点数で表すわけでもない。表彰されるわけでもない。でも、私自身とても感動した。(6年児童)

○5年生のみんなへ 運動会ではみんなと協力して準備をしてきたけど、5年生のみんなはとてもよくがんばってくれていたよ。みんななら安心して6年生を任せられるよ。僕達が卒業したらみんなが栗原北小学校をうまく引っ張って行ってね。(6年児童)

<応援合戦>

- ・応援合戦を演技に位置づける。
- ・6年生の応援団を中心に、児童が応援歌や振り付けを考える。
- ・6年生の応援団が中心となって、練習計画を立て、練習をする。
- ・応援合戦の中で、お互いにエール交換を行う。
- ・運動会当日、地域の参観者に応援合戦の得点を入れてもらい、勝敗を決める。

児童の感想より

○私がこの応援団で得たものは支え合い、そして感謝だ。はじめの練習では、なかなか大きな声が出なくてただただしているのが目立っていた。それが、練習を重ねるうちに、大きな声が出るようになり、みんなの動きがそろそろようになり、だんだんと変わってきた。「いっしょにがんばろう。」という言葉が増えた。変わっているということはみんなの支えがあったから。それは友達、先生方、保護者の方、いろんな方に支えてもらった。たくさんの感謝だ。この運動会を通して私が成長したことは、自信が持てるようになったことだ。この自信を活かしてこれからもがんばっていききたい。

(6年児童)



### 取組の課題・創意工夫『キーワード 評価の見える化』

#### <創意工夫>

- ・児童みんなが全力を出し、力を合わせる運動会のイメージを児童自身が考え話し合った。
- ・運動会の練習や運動会当日の具体的な目標や評価基準を児童が話し合い設定した。
- ・他学年の児童や地域の方を含めての多角的な視点からの評価を行い、評価内容を掲示する等、評価の見える化を図った。

#### <課題>

- ・児童に考えさせたり練習をさせたりする時間が十分に取れなかった。
- ・児童の話し合い活動における進行や具体的な意見、討論に対する教職員の指導、サポートが十分ではなかった。

### 取組の成果（効果）『キーワード 感謝の心と自尊感情の醸成』

- ・運動会までの練習における6年生の一生懸命な姿や当日のリーダーの真剣な姿から、他の学年の児童にも栗原北小学校を良い学校にしていこうとする愛校心が高まってきた。
- ・児童自身が行事をつかっていこうとする意識が高まり、6年生を中心として主体的な動き、自律的な姿が見られるようになった。
- ・保護者や地域の方が温かい目で見てくださいという実感を児童が抱くことができ、感謝の心や自尊感情を育むことができた。
- ・運動会での取組を学習発表会に活かすことができ、学習発表会での6年生のメッセージを全児童で受け止め、これからの自分たちの行動について考えることができた。

### 今後の展開『キーワード 取組の継承』

- ・今までの取組で育まれた自尊感情や一体感・愛校心を下学年に継承するために、今まで自分達がいろいろな活動を行ってきた思いや下学年への願いを伝える場を設定する。
- ・目標設定や計画作成、活動の実施、ふり返りや評価といった過程を大切にすることで、児童の主体的な活動を推進する。

### 他校へのアドバイス『キーワード 児童が主体となる活動の推進』

- ・児童が持っている愛校心や正義感といった前向きな気持ちがより高まるよう、学校行事等において児童が主体的に活動できる場面を設定していく。そのような取組に加え、他の学年の児童や保護者地域の方からの温かい励ましや肯定的な評価を実感させることで、児童の自律性が醸成されるものとする。